



山陰地方・縄文時代の低湿地遺跡と後・晩期の生業

柳浦 俊一（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター）

1. 遺跡の立地（表1）

山陰地方の地形は、大山山麓が台地状に広がる鳥取県と、平野の狭い山がちな島根県とに大きく分けられ、両県の景観は大きく違う。鳥取県では中・西部に大山の山麓が広く広がり、沖積平野は鳥取市湖山池周辺・東郷町東郷池周辺・米子市周辺で発達している。島根県では、鞍部の狭い丘陵が日本海・宍道湖中海沿岸までせまり、平地は沿岸部にへばりつく沖積平野か河川沿いの河岸段丘である。

山陰地方、とりわけ島根県の縄文時代遺跡を見渡した場合、縄文時代の低湿地遺跡は遅くとも早期末から出現しており、とくに後・晩期に低湿地遺跡が増加するという感触はない。遺跡数は、後・晩期に増加する傾向は窺えるが、立地という点では低湿地遺跡は前期以降一定の比率を持って存在し続けている。ただし、出雲平野南部・西端部の益田平野など、それまで縄文遺跡が存在しなかった地域で、後期・晩期に遺跡が進出することは注意すべきかもしれない。

2. 植物遺体

植物遺体は37種の可食植物が確認され、そのうち8種が栽培植物である。とくにアカガシ亜属のドンダリの出土が多く、花粉分析の結果とも符合する。出土した種子類で栽培種とされるのは、アブラナ類（前期～晩期）、ヒョウタン（前期・後期）、リョクトウ（中期末）、モモ（後期・晩期）、ウメ（晩期）、ヒエ（あるいはアワ）、ムギ、イネ、シソ（以上晩期）の8種である。鳥取県米子市目久美遺跡の分析では、晩期に栽培種が増加する。ここでは、晩期に水田雑草（水中植物）・田畑共通雑草（畦畔雑草）・畑雑草（人里植物）が急増し、晩期のある時期に人為的な作用が大きく働いたことが考えられる（笠原ほか1986）。

3. ネと雑穀栽培種の痕跡（表6・7）

イネや雑穀栽培種が縄文時代に存在した痕跡は、土器についたイネの圧痕と、プラントオパールである。

イネの圧痕土器は、板屋Ⅲ遺跡・石台遺跡・講武氏元遺跡で出土している。いずれも晩期後半の突帯文土器で、講武氏元遺跡は弥生土器と共伴する時期、板屋Ⅲ遺跡は突帯文初期の段階の土器である。岡山県では後期後葉土器にイネ圧痕がつく土器が出土しているが、山陰ではいまのところ晩期前半や後期にさかのぼるものはない。

プラントオパール分析は、島根県山間部の志津見ダム建設予定地内の遺跡で行われ、イネのプラントオパールは3遺跡で、その他の栽培植物は8種が5遺跡で検出されている（高橋2003）。検出されたプラントオパールのうち、長沢宏昌・山本直人・長崎元廣が集約した縄文時代出土栽培植物（長沢・山本1999 長崎1999）で挙げられていないのは、キビ・モロコシ・ハトムギ・シコクビエの4種で、逆に縄文時代の栽培植物でよく引き合いに出される、エゴマ・ソバは検出されていない。

イネはプラントオパール分析では草創期の層から検出されるというが、イネの存在が肉眼で確認できるのは晩期後半のイネ圧痕の土器である。

4. 石器

後期後半から土掘り具とされる打製石斧が卓越する遺跡が見られるようになり、晩期後半以降では

顕著である。それに対し、穂摘み具とされる石包丁状のスクレーパーは出土数が少ない。両者は農耕具としてとらえられることがあるが、石器組成からは少なくとも晩期後半以前は全面的な農耕の証拠は認めにくいように思われる。

5. まとめ

縄文時代後・晩期に沖積地への進出があったという概説的説明は、山陰地方、とくに島根県では適用しがたい。また、山陰地方の栽培植物は縄文時代前期まで遡ることができるが、これらの栽培植物が生活を支える主体であったとするにはあまりに不安定な検出状況である。

参考・引用文献

笠原安夫・武田満子・藤沢浅1986「米子市目久美遺跡の種実の分析」『目久美遺跡』米子市教育委員会

山陰考古学研究集会2000『山陰の縄文時代遺跡』

高橋護2003「板屋Ⅲ遺跡におけるプラントオパール分析による栽培植物の検出結果とその考察」『板屋Ⅲ遺跡（2）』島根県教育委員会

長沢宏昌・山本直人1999「生業研究 総論」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会

長崎元廣1999「生業研究 縄文時代農耕論」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会

山田康弘・河合章行・稲田陽介2003「山陰地方における縄文時代石器の実相」『中四国地域における縄文時代石器の実相』第14回中四国縄文研究会

表1 山陰地方・縄文時代遺跡の立地

島根県

立地／時期	早 期	前 期	中 期	後 期	晩 期	合 計
丘陵	19	8	7	12	4	50
河岸段丘・砂丘	17	13	18	57	39	144
低湿地	6	18	14	24	22	84

鳥取県

立地／時期	早 期	前 期	中 期	後 期	晩 期	合 計
丘陵	37	14	26	39	42	158
河岸段丘・砂丘	12	8	13	17	21	71
低湿地	12	17	19	43	52	143

1遺跡で複数時期存在する場合は、各時期毎に1遺跡と数えた（例；同一遺跡でも「早期～前期」にわたるなら、「早期1・前期1」とカウント）。

山陰考古学研究集会2000『山陰の縄文時代遺跡』より作成

